

こんしゅう かみ
今週のことば「神のもの」

せいしよ ふくいんしよ
《聖書》マタイによる福音書 22:15-21

せい きょう ぶん り
政教分離

きょう ふくいんしよ ことば
今日の福音書にあるイエスの言葉は、
り かい
どのように理解したらいいのでしょうか。
きょう ていこく なか ひろ
キリスト教がローマ帝国の中で、広がっ
せいじ しゅうきょう むす
ていくにつれて、政治と宗教が結びつき、
ぶっしつてき せ かい こうてい せいしんてき せ かい
物質的な世界は皇帝が、精神的な世界は
きょうかい し はい
教会が支配するようになりました。

こ きょうかい れきし なか せいじ
その後の教会の歴史の中で、政治との
むす つよ
結びつきがあまりにも強くなりすぎた
きょうかい せいじ くち だ
めに、教会は政治について口を出さない
せいきょうぶんり げんそく つく
ようになり、政教分離の原則が作られて
けっか きょうかい
いきました。しかし、その結果、教会は
げんだいしゃかい もんだい たい なに はつげん
現代社会の問題に対して何も発言できな
しんこう せいかつ
くなり、信仰は生活とかけはなれたもの
となってしまうました。

げんじつ もんだい たい きょうかい
現実の問題に対して、教会も、はっき
はんだん くだ かんが つよ
りした判断を下すべきだという考えが強
ねん ねん だい
くなり、1962年～1965年に、第
こうかいぎ ひら
2バチカン公会議が開かれました。

しゃ かい
社会とともに

あゆ きょう かい
歩む教会

きょうときょうく ねん きょうく
京都教区でも、1981年に教区ビジ
つク わたし しゃかい
ョンが作られ、『私たちは、この社会の
かた げいこう しゃかい なか
あり方に迎合するのではなく、社会の中、
ひとびと なか ふくいんてき
人々の中にある福音的なものを、キリス
たね う
トのメッセージ、みことばの種として受
い どりょく はんめん
け入れ、それに努力すること、その反面、
しゃかい なか ひ じんげんてき ふくいん
社会の中にある非人間的なもの、福音の
せいしん はん たい
精神に反するものに対しては、はっきり
こえ けんめい ただ ひつよう
声をあげ、賢明にこれを正すことが必要
い
であると言えるでしょう』と言われてい
ます。

しゅうきょう せいじ むす む かんしん
宗教は政治と結びついても、無関心で
つね ふくいんてき はんだん
あってもいけない、常に、福音的な判断
つ
をもち続けなければいけないのです。

ふくいんせんきょう ひょうげん ただ
『福音宣教』という表現がやっと正し
り かい わたし まいち せいかつ ば
く理解され、私たちの毎日の生活の場で、
ひとりひとり ふくいん びと
一人一人が福音のあかし人となっていく
ひつようせい ひと き しゃ
ことの必要性が認められて来ました。社
かい ひつよう みみ かつ ぶく
会の必要としていることに耳を傾け、福
いん せいしん こた
音の精神をもって、これに答えていくこ
たいへん わたし どりょく
とはとても大変ですが、私たちの努力の
ふくいんせんきょう な た
つみかさねによって、福音宣教は成り立
っているのです。

ねんかんだい しゅじつ ねん たきの
年間第29主日A年(滝野)